

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 4 月 14 日現在

機関番号：32704

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12534

研究課題名（和文）第二次世界大戦後のアメリカ合衆国を軸とした人道援助と福祉思想の国際連環

研究課題名（英文）The Global Circulation of American Humanitarian Aid and Welfare Ideologies after World War II

研究代表者

小滝 陽 (Kotaki, Yo)

関東学院大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：00801185

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は第一に、第二次世界大戦後に生じた、福祉分野の国際交流とその帰結を描いた点である。連合国の専門家の接触によって媒介された福祉思想は、韓国の戦争被害者に対する授産事業、パキスタンでの福祉教育、合衆国内のキューバ難民再定住政策、南ベトナムでの戦争避難民支援につながり、福祉思想の国際的連鎖を形成した。

第二の成果として、上記の国際連環の中で福祉思想に生じたジェンダー面での変化を指摘した。具体的には、合衆国内や南ベトナムで難民向けに実施された公的扶助制度と女性に就労を促す政策のセットが、母子家庭向け公的扶助の受給者を対象とした米国ワークフェア政策の原型と見なせることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は大きく分けて2点あり、1つは第二次世界大戦後の各国における福祉政策が、戦争と冷戦のような国際政治上の対立と深くかかわりながら展開したことを示した点である。また、そうした福祉の展開が専門家による国際交流の中で形成されたことを指摘し、しばしば一国内に閉じた問題として理解されがちな福祉政策について、より広域的な視点から考察する方法を示したことが、本研究の第2の意義である。

研究成果の概要（英文）：This study examined the post-World War II international exchange of welfare ideas, focusing on how experts from America and Allied countries developed vocational rehabilitation programs for war victims in Europe and Korea, welfare education in Pakistan, resettlement policies for Cuban refugees, and aids for war refugees in South Vietnam. Through these exchanges, an international chain of welfare ideas emerged.

Furthermore, this study shed light on the development of gender ideology within this international chain of events. It reveals that the public assistance programs implemented for refugees in the U.S. and South Vietnam, as well as policies to encourage women to work, served as a prototype for the U.S. workfare policy. This policy, which targeted recipients of public assistance for mothers and children, reflects the changing gender dynamics of welfare programs and highlights the importance of understanding how welfare ideas are shaped and transformed through global exchange.

研究分野：アメリカ現代史

キーワード：リハビリテーション ワークフェア 第二次世界大戦 朝鮮戦争 キューバ難民 ベトナム戦争 福祉思想 国際史

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、第一次世界大戦（以下、一次大戦）後の欧州救援事業が、「文明化」を標榜したアメリカ合衆国（以下、合衆国）による国際秩序形成の起点として先行研究の注目を集めていた。他方で、第二次世界大戦（以下、二次大戦）後の合衆国による欧州救援の経験が冷戦期におよぼした長期的・広域的な影響を検証する試みは乏しかった。しかし、医療・公衆衛生・教育・社会福祉など、多分野にまたがる総合的な社会政策の実践場となった二次大戦後の欧州では、ニューディール改革を基礎づけた合衆国の福祉イデオロギーと連合国など他地域の思想が交錯するなかで、人道援助プログラムを基礎づける福祉の理念と方法が形成されていたことは、先行研究からうかがい知れた。

研究代表者（以下、代表者）は、こうした社会政策の知見が、国連などの国際機関や民間団体の人道援助プログラムにより冷戦期のアジアへと伝達・拡散され、被援助者との交渉を通じて変容を重ねていった、との仮説を設定した。さらに、これら人道援助の経験は、アフリカ系アメリカ人（以下、黒人と表記）の難民専門家が指揮する 1960 年代のキューバ難民受け入れを通して合衆国内にも還流し、各都市の福祉行政に影響を与えていると見られた。そこで、代表者は、欧州で実施された人道援助プログラムの経験がアジアと合衆国本土に移植される上記の経緯を追い、国際機関による戦後秩序形成の試みの中で生じた思想連環が合衆国の福祉に与えた影響を問うことを着想した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、二次大戦の終結から 1960 年代前半にかけて、欧州・アジア・合衆国で実施された一連の人道援助事業に焦点を当て、個人とコミュニティに「自助」を求める福祉思想のトランスナショナルな形成過程を考察することであった。戦後、ソーシャルワークの専門家は、戦災復興・避難民の支援・開発援助といった人道援助事業に従事するべく、国境を越えた。本研究は、彼ら合衆国の福祉専門家と欧州・アジア地域の人々の間に生じた交流の分析を通して、戦争と冷戦を背景とした福祉思想の生成・伝播・変容を論じ、国内動向を中心とした 20 世紀後半の合衆国福祉史の叙述を刷新することを目指した。あわせて、「グローバルな南北問題」に関心を寄せた黒人の専門家が上記の思想形成に与えた影響にも注目し、冷戦下における人種と福祉思想の関係を解明しようとした。

3. 研究の方法

上記の目的に沿って研究を進めるにあたり、代表者は考察の中心テーマを時系列に沿って大きく 3 つに分けた。

第一に、両大戦間期から戦時中にかけて自立支援の思想と方法を蓄積した合衆国のソー

シャルワーカーが、戦後欧州の人道援助で他国の福祉専門家と交わした議論を追い、合衆国と他地域の福祉思想の交流・変容に光を当てた。本研究は、二次大戦後の欧州における人道援助事業の中でも特に個人の人的資本と「コミュニティ」の開発に重点を置いた福祉プログラムに焦点を当て、大戦後の国際的な福祉思想潮流の起点としての欧州救援の意義を明らかにすることを目指した。

本研究の主たる方法は文書館における調査であるが、上記、第一のテーマに関連しては、2019年2月にニューヨーク市の国際連合文書館で連合復興救済機関の資料を、同年7-8月にはパリのフランス国立公文書館で国際難民機関資料を調査した。

第二のテーマとして、分離独立後のパキスタンおよび朝鮮戦争後の韓国で避難民を対象に実施された国連および民間団体の福祉プログラムに焦点を当て、欧州の人道援助経験のアジアへの移植を分析した。特に、当該地域の福祉提供において合衆国をはじめとする各国のソーシャルワーカーと現地の人々が交わした議論を追い、そこに生じた福祉思想の変化を検証した。また、これらの福祉プログラムで主導的な役割を果たした黒人ソーシャルワーカーらの活動と議論を分析し、冷戦初期に胚胎した「グローバルな南北問題」への視座を析出した。なお、この問題を追及する過程で、2人の黒人福祉専門家が、二次大戦後の欧州、パキスタン、そして合衆国内、さらに、1960年代後半からの南ベトナムにおいて、貧困層や難民を対象に行った活動のつながりが見えてきた。そこで代表者は考察の時間的幅を拡大し、二次大戦からベトナム戦争に至る福祉思想の国際連環における黒人専門家の役割を跡づけた。

第二のテーマに関連する文書館調査としては、2019年2月にニューヨーク市の国際連合文書館で国連韓国復興機関（UNKRA）と国連パキスタン・ミッションの資料を、同年9月にはメリーランド州カレッジパークの米国国立公文書館でベトナム戦争中のベトナム駐留米軍関係の資料を調査し、2023年にはペンシルベニア州フィラデルフィアのアメリカ・フレンズ奉仕委員会（略称AFSC）の文書館で、同団体の韓国での活動にかかわる史料を収集した。なお、この時の調査では、本研究計画の開始以前に一部を先行的に調査していたAFSCのベトナムでの活動に関する史料のうち、未見となっていた部分を閲覧し、情報の補足を図った。

そして第三のテーマとして、1960年代の初頭に合衆国政府が実施した、キューバ難民向けの自立支援・再定住プログラムに、先行する欧州とアジアでの人道援助事業の経験が与えた影響を検証した。キューバ難民受け入れに関する政治プロセスに焦点を当てた先行研究は、党派政治や公民権運動など、合衆国内の動向が冷戦期の「人道的な」難民受け入れ政策に及ぼした影響に注目している。本研究では、欧州及びアジアでの人道援助経験を持つ黒人の難民専門家に指揮されたキューバ難民の受け入れが各都市の福祉行政に与えた影響を分析し、国際的な福祉思想の合衆国への還流とその帰結を検証した。

このテーマに関わっては、2018年8月にフロリダ州のマイアミ大学でキューバ難民支援にかかわる史料を、テキサス州オースティンでリンドン・B・ジョンソン大統領図書館が所

蔵するキューバ難民支援関連の史料を調査・収集した。また、後者の調査では、キューバ難民支援の責任者であった黒人の福祉専門家が、ベトナム戦争中の南ベトナムにおける避難民支援の任に抜擢される経緯を行政資料で確認した。

なお、本研究の開始当初に予定していた海外での文書館調査は、2020年春以降、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により大幅な計画変更を強いられた。当初の研究計画から2年の期間延長を余儀なくされ、予定されていた調査のうち、ジュネーブでの調査とカンザス州アピリンのドワイト・アイゼンハワー大統領図書館での調査は断念せざるをえなかった。

4. 研究成果

本研究の成果は以下で挙げる論点とのかかわりから、2つのグループに大別できる。第一のグループは、二次大戦後の国際的な福祉思想伝播のプロセスにかかわる成果である。冷戦期の開発援助と西側諸国の利害の結びつきを強調する先行研究に対し、本研究は、まず二次大戦直後の欧州にドイツの占領と再建に関する占領当局の立場から相対的に独立した、福祉分野の国際交流が存在したことを示した。その過程で、出身地域を異にする専門家の接触によって媒介された福祉思想が、のちに韓国の戦争被害者に対する授産事業、パキスタンでの福祉教育、米国内でのキューバ難民の再定住政策、戦時下の南ベトナムにおける国内避難民への支援、そして、これらと接続する民間組織の人道援助活動にも影響を与え、国境を越える福祉思想の連鎖とその影響下での福祉政策の展開を促したことが浮き彫りになった。これを「論点(1)」とする。

第二のグループは、上記の国際連環の中で、福祉思想に生じたジェンダー面での変化を分析した成果である。代表者は、母子家庭向け公的扶助の受給者を対象とした、20世紀末の米国におけるワークフェア政策の制度的原型として、米国や南ベトナムで実施された難民に対する公的扶助制度と、そこに含まれる女性に就労を促す政策を歴史的に位置づけた。その結果、難民の男性を主たる対象として実施されていた就労支援が、キューバ難民の受け入れが活発化する1960年前後までには女性の経済的「自立」を課題として挙げるようになり、さらにベトナム戦争の際には、ベトナム共和国(南ベトナム)の戦時体制の一環として女性の労働力化を目指すプログラムが数多く作られたことが判明した。こうしたプログラムは、米国内で公的扶助を受給する女性を対象とした「ワークフェア」の制度化の進展と並行して展開していた。これを「論点(2)」とする。

各論点に関わる業績は以下のとおり。

論点(1)に関わる業績

小滝陽『『脱アメリカ化』のためのリハビリテーション：南ベトナムにおける責任委員会の活動と冷戦期人道援助規範の変容』『アメリカ太平洋研究』第22号(2022年):93-109

小滝陽「対峙する人道と人権：欧州・キューバ難民への就労強制」『歴史評論』第 844 号(2020 年): 41-53

Kotaki, Yo. Transpacific Militarization of Welfare and Falling Male-breadwinner Ideology in the Vietnam War. The California, Northwest, and Hawai'i Affiliates of the World History Association, February 23, 2019, University of California, Berkeley. (学会発表)

論点(2)に関わる業績

小滝陽「ベトナム戦争末期の南ベトナムにおける福祉プログラムと「男性稼ぎ主モデル」の変容」『関東学院大学人文学会紀要』第 147 号(2022 年) 45-66

小滝陽「難民の『ワークフェア』：1960年代アメリカの福祉改革と国際的な人道援助の規範」石井紀子・今野裕子編『「法-文化圏」とアメリカ：20世紀トランスナショナル・ヒストリーの新視角』上智大学出版(2022年): 171-201

Kotaki, Yo. "Sharing Paternalism between Refugee Assistance and Welfare Reform in the 1960s America" American Studies Association Annual Meeting, November 7, 2019, Hawaii Convention Center (学会発表)

小滝陽「キューバ難民プログラムと1960年代アメリカの福祉改革」アメリカ学会第53回年次大会(2019年6月1日) 法政大学市谷キャンパス(学会発表)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 小滝陽	4. 巻 147
2. 論文標題 ベトナム戦争末期の南ベトナムにおける福祉プログラムと「男性稼ぎ主モデル」の変容	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関東学院大学人文学会紀要	6. 最初と最後の頁 45-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小滝陽	4. 巻 22
2. 論文標題 「脱アメリカ化」のためのリハビリテーション：南ベトナムにおける責任委員会の活動と冷戦期人道援助規範の変容	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アメリカ太平洋研究	6. 最初と最後の頁 93-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小滝陽	4. 巻 844
2. 論文標題 対峙する人道と人権：欧州・キューバ難民への就労強制	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 41-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 小滝陽
2. 発表標題 キューバ難民プログラムと1960年代アメリカの福祉改革
3. 学会等名 アメリカ学会第53回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yo Kotaki
2. 発表標題 Sharing Paternalism between Refugee Assistance and Welfare Reform in the 1960s America
3. 学会等名 American Studies Association Annual Meeting 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yo Kotaki
2. 発表標題 Transpacific Militarization of Welfare and Falling Male-breadwinner Ideology in the Vietnam War
3. 学会等名 Joint Conference of the California, Northwest, and Hawai'i Affiliates of the World History Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 石井紀子、今野裕子、上林朋広、小滝陽、佐藤雅哉、牧田義也	4. 発行年 2022年
2. 出版社 上智大学出版会	5. 総ページ数 250
3. 書名 「法-文化圏」とアメリカ：20世紀トランスナショナル・ヒストリーの新視角	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------